

令和5年度 川崎市病院事業会計決算（見込）の概況

○ 決算見込みのポイント

◎病院事業全体（市立3病院計）の経常損益は、入院及び外来収益が増加したものの12億788万円の経常損失となりました。また、病院事業全体の純損益は、新型コロナウイルス感染症に係る補助金の減少などにより7億9,218万円の純損失となりました。

市立3病院の経営成績（税抜き） （単位：円）

科目	川崎病院	井田病院	多摩病院※	病院事業合計
総収益	24,207,060,063	10,009,695,487	1,988,834,000	36,205,589,550
医業収益	21,426,176,025	8,076,555,440	1,016,088,363	30,518,819,828
医業外収益	2,647,682,470	1,781,243,042	609,325,034	5,038,250,546
特別利益	133,201,568	151,897,005	363,420,603	648,519,176
総費用	24,284,639,640	11,470,389,642	1,242,736,881	36,997,766,163
医業費用	22,893,570,467	10,876,513,727	1,001,813,066	34,771,897,260
医業外費用	1,184,607,702	567,815,878	240,626,387	1,993,049,967
特別損失	206,461,471	26,060,037	297,428	232,818,936
経常損益	△ 4,319,674	△ 1,586,531,123	382,973,944	△ 1,207,876,853
純損益	△ 77,579,577	△ 1,460,694,155	746,097,119	△ 792,176,613

※多摩病院は利用料金制を採用しているため、多摩病院の診療収益は市病院事業会計の決算に含まれておりません。

○ 患者状況・診療収益状況

◎川崎病院、井田病院では、外来患者延人数は減少しましたが、入院患者延人数の増加や診療単価の上昇により、入院、外来ともに収益が増加しました。

◎多摩病院では、入院、外来ともに患者延人数及び収益が増加しました。

	入院患者延人数	外来患者延人数
川崎病院	170,090人（3,332人増）	300,360人（1,715人減）
井田病院	97,329人（11,532人増）	139,984人（3,043人減）
多摩病院	100,023人（14,798人増）	198,131人（905人増）

	入院患者実人数	1人平均入院日数
川崎病院	13,973人（422人増）	12.2日（0.1日減）
井田病院	5,885人（111人増）	16.5日（1.6日増）
多摩病院	8,632人（947人増）	11.6日（0.5日増）

	入院収益（税抜き）	外来収益（税抜き）
川崎病院	136億1,582万円（5億9,990万円増）	61億6,775万円（3億1,274万円増）
井田病院	49億4,087万円（2億4,247万円増）	26億4,429万円（8,576万円増）
多摩病院	65億7,402万円（4億115万円増）	29億8,339万円（5,897万円増）

※（ ）は前年度比較

○ 業務状況

市立3病院では、市の基幹病院又は地域の中核病院として、公共の福祉の増進と経済性の発揮を基本としながら、高度・特殊・急性期医療や救急医療等を継続的かつ安定的に提供しています。また、「川崎市立病院経営計画 2022-2023」に基づき、災害、研修教育等の対応を含めた医療行政施策を推進し、地域医療機関との連携を進めるなど、本市の医療水準の向上に寄与できるよう取り組んでおり、令和5年10月に市立3病院ともに紹介受診重点医療機関として神奈川県から公表され、令和6年3月には井田病院が川崎病院及び多摩病院に続き、本市から地域医療支援病院の承認を受けました。

一方、病院経営における収入の根幹である診療報酬が低水準のままで留め置かれている中、人口減少や少子高齢化の急速な進展と地域包括ケアシステムの取組、コロナ禍後の社会変容による医療需要の変化、医療提供主体の病院から地域診療所や在宅への移行という受療動向の変化、医療の高度化といった病院経営に係る環境の急激な変化等への対応が求められるなど厳しい状況にあります。また、新興感染症への対応や、医師の働き方改革、情報セキュリティの強化など、新たな課題への対応も求められています。

このような状況の中、本市病院事業においては、公立病院として地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供するとともに、更なる経営改革と経営健全化を図るため、令和6年3月に「川崎市立病院中期経営計画 2024-2027」を策定しました。

- ◎川崎病院においては、高度・特殊・急性期医療、救命救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等への医療や、精神科救急医療などを提供しています。また、増加する救急搬送やがん等の医療需要に対する医療機能の拡充や防災機能の強化等を目的とする川崎病院医療機能再編整備については、令和5年8月にエネルギー棟及び給水ポンプ棟の運用を開始し、令和5年11月から救命救急センター棟の新築工事に着手したところです。
- ◎井田病院においては、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、結核医療、緩和ケア医療などを提供しており、在宅療養後方支援病院として、地域の在宅医をサポートする取組も進めています。
- ◎多摩病院においては、小児救急を含めた救急医療を中心に、高度・特殊・急性期医療、アレルギー疾患医療等の一般診療を提供し、また、地域医療支援病院として引き続き地域の医療機関との連携に努めるなど、北部地域の中核病院としての役割を果たしています。なお、本病院は指定管理者制度を採用し、学校法人聖マリアンナ医科大学が運営管理を行っています。

○ 主な建設改良

- ◎川崎病院では、エネルギー棟の整備を実施したほか、照明設備改修工事等を実施しました。井田病院では、LED化ESCO事業等を実施しました。
- ◎医療器械については、川崎病院では、総合医療情報システムネットワーク機器の更新等を行いました。井田病院では、血管撮影装置の更新等を行いました。

【問合せ先】 川崎市 病院局 経営企画室 経理担当 佐藤
電話 044-200-3855

令和5年度 病院事業会計決算（見込）のポイント（税抜き）

<病院事業全体>

			令和5年度決算 (見込)	令和4年度決算	増 △減額	増 △減率	備 考
1 収益的収入			362億 600万円	377億4,900万円	△15億4,300万円	△4.1%	
主な 収入	入院収益		185億5,700万円	177億1,400万円	8億4,300万円	4.8%	患者延人数の増加による川崎病院及び井田病院の増
	外来収益		88億1,200万円	84億1,400万円	3億9,800万円	4.7%	診療単価の増加による川崎病院及び井田病院の増
	他会計繰入金		58億2,700万円	58億8,400万円	△5,700万円	△1.0%	
2 収益的支出			369億9,800万円	364億2,700万円	5億7,100万円	1.6%	
主な 支出	給与費		166億2,900万円	165億6,900万円	6,000万円	0.4%	
3 経常損益			△12億 800万円	△18億4,200万円	6億3,400万円	34.4%	
内訳	川崎病院		△400万円	△3億 800万円	3億 400万円	98.7%	
	井田病院		△15億8,700万円	△18億7,800万円	2億9,100万円	15.5%	
	多摩病院		3億8,300万円	3億4,400万円	3,900万円	11.3%	
4 純損益			△7億9,200万円	13億2,100万円	△21億1,300万円	△160.0%	
内訳	川崎病院		△7,800万円	13億 500万円	△13億8,300万円	△106.0%	
	井田病院		△14億6,000万円	△6億6,700万円	△7億9,300万円	△118.9%	
	多摩病院		7億4,600万円	6億8,300万円	6,300万円	9.2%	

(注) 増△減率が正の場合、収支は改善している。負の場合、収支は悪化している。

5 資金不足比率	— (資金不足となっていない)	— (資金不足となっていない)			参考：財政健全化法における経営健全化基準 20%
----------	--------------------	--------------------	--	--	--------------------------

※ 金額については百万円未満を四捨五入（一部、端数調整有り）

※ 増減率については小数点第2位を四捨五入